

○計画期間：平成27年4月～平成32年3月（5年）

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 平成29年度終了時点（平成30年3月31日時点）の中心市街地の概況

守山市では、平成21年3月～平成27年3月までの6年間を計画期間とする「守山市中心市街地活性化基本計画」（前計画）により高まったまちづくりの機運をより効果的に反映し、更なる活性化を図るため、平成27年3月27日に新たな基本計画（本計画）の認定を受けた。

『住み続けたいくなる“絆と活力ある共生都市”の創造』を基本理念とし、「新たなサービスにより、にぎわいが感じられるまち」「こどもから高齢者まで幅広い世代が誇りと愛着を持ち共生できるまち」「地域資源を活かし、魅力的で歩いて楽しく回遊できるまち」を目標に、民間事業者、各関係団体等との連携を図りながら中心市街地の活性化に取り組んでいる。

前計画で整備した「守山市歴史文化まちづくり館（守山宿・町家“うの家”）」、「守山市中心市街地活性化交流プラザ（あまが池プラザ）」、「チカ守山」などのにぎわい創出拠点では、年数経過とともに認知度が上がってきており、利用者数は順調に増加傾向で推移している。

ハード事業では、平成29年度、本計画の重要事業に位置付けた「守山駅前の顔づくり事業」を実施。近江鉄道ビルを建て替え、8月に新たな駅前商業施設「cocotto MORIYAMA」の開業を迎えた。

また、「守山銀座ビル地区第一種市街地再開発事業」においては、守山銀座ビル市街地再開発組合による旧建物の解体工事が完了した。今後新ビルの建設工事が行われるところであり、まちの回遊性・滞在性を高めると共に、住民が安心して歩いて行ける商業機能等の更新および居住環境の整備等を図る。

更に、経済活力向上を目的とする事業として位置付けた「火まつり等伝統行事継承事業（火まつり交流館整備事業）」では、平成28年度「地域・まちなか商業活性化支援事業（中心市街地再興戦略事業）」を活用する中、認可地縁団体勝部自治会による商業機能を持つ新たなにぎわい拠点として平成29年4月に開館を迎えた。同館では、引き続き「中心市街地商業活性化診断・サポート事業」を活用しながら、飲食店2店舗および貸館事業を行っており、順調に売上げ・来館者数を伸ばしている。

ソフト事業では、「うの家」「あまが池プラザ」で行われるジュニアクラシックコンサートなど音楽を学ぶ若者たちの発表事業、守山野洲市民交流プラザによる文化講座、健康フェスティバルや介護予防教室、健康・予防医学に関わる講演会、子どもたちによる木の手作りジャングルジム作りなど新たなソフト事業も着実に実施されており、幅広い世代が交流するイベントとして地域

に定着してきている。

また、本計画に位置付けている、「ルシオール アート キッズフェスティバル」、「もりやま夏まつり」、「守山ほたるパーク&ウォーク」などの主要イベントは、「うの家」「あまが池プラザ」「チカ守山」の3つのにぎわい創出拠点を中心に、守山市や株式会社みらいもりやま21を主体として取り組まれており、歩いて楽しく回遊できる環境も整ってきている。

都市機能の増進については、株式会社みらいもりやま21を中心に継続して各種取組を進行している。

前計画で実施された「平成 26 年度中心市街地商業活性化診断・サポート事業」の結果を踏まえて、本計画でも継続して「セルバ守山 1・2 階活性化事業」を実施し、平成 28 年度から同1階への飲食店誘致に取り組んでいる。平成 29 年度には1店舗が新たにオープンをしている。(株式会社みらいもりやま21によるサブリース方式)

その他に、株式会社みらいもりやま21は「近江鉄道ビル」においてもテナント誘致(1店舗)に関わるほか、前計画から引き続き施設の管理運営を行う「うの家」「あまが池プラザ」では、併せて4つの飲食店のテナントミックス事業を展開し、本計画においても当該施設を最大限活用する件で、まちなかでの交流と憩いの場を提供しており、エリア内の活性化に寄与している。

このように、中心市街地における事業が広く市民に浸透し、まちのイメージ向上に貢献している一方で、本計画にて取り組む「市立図書館整備事業」に伴う利用者減少等により、目標指標の一つである「歩行者・自転車通行量(平日)」は、一時的に基準年値より減少している。しかし、市立図書館整備完了後(平成 30 年秋)以降、最終年度までには目標を達成できるよう、本計画における中心市街地活性化の取り組みを通して、歩いて楽しく回遊できる仕掛けづくりを更に検討することにより、歩いて楽しい環境を創出する必要があると考える。

本計画は、折り返し時期を迎え、重要事業に位置付けたハード事業が次々と具体化しつつある。今後は、現在進行中である取組が着実に完了・目標達成できるように事業を推進し、さらに動き始めている民間事業者、関係者間等との連携を一層図り、より効果的、効率的に進捗するよう本計画を推進していく。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

(中心市街地区域)	平成 26 年度 (計画期間開始前年)	平成 29 年度 (フォローアップ年)
人口	12,991 人	13,532 人
人口増減数	前年同時期 6 人増	前年同時期 18 人減
社会増減数	-	前年同時期 112 人増
転入者数	-	前年同時期から 853 人転入

※基準日は 1 月 1 日

2. 平成 29 年度の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

平成 29 年度は、6 月、2 月の計 2 回、中心市街地活性化協議会を開催し、各事業の進捗状況等の報告や意見交換等を行った。

加えて、平成 29 年度は、本計画期間の中間年度であることから、今後の中心市街地活性化の在り方について協議を行う検討委員会を 11 月に開催した。

協議会では、守山市における中心市街地活性化に対しては、前計画を通してハード事業による「にぎわいの拠点」が整備され、各種のソフト事業が充実したことによって、中心市街地に多世代が集い、活気が出てきたと協議会委員から評価されている。

本計画は、策定から 3 年が経過し、民間事業者による商業施設整備等が次々と具体化してきた。その上で、民間事業者の取り組みを更に活性化させるためには、それぞれがにぎわい創出に繋がるソフト事業を継続し、関係者同士が連携を強化しながら、事業を連鎖する事で相乗効果を高めていこうと意思確認を行った。

また、今年度で開催した検討会では、前計画で整備した「にぎわいの拠点」を活用するソフト事業の今後の更なる展開を求める意見や、中心市街地の活性化は大前提とした上で、守山市域全体を俯瞰した視点から中心市街地エリア外の事業との繋がり等も考慮して、取り組みを進めてはどうかという意見をいただいた。

Ⅱ. 目標毎のフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	前回の見通し	今回の見通し
新たなサービスにより、にぎわいが感じられるまち	新規出店店舗数	7 店舗/年 (H25)	35 店舗 (H27~H31)	50 店舗(累計) (H27~H29)	①	①
こどもから高齢者まで幅広い世代が誇りと愛着を持ち共生できるまち	中心市街地内の福祉・文化・交流施設の利用者数	466,854 人/年 (H25)	507,000 人/年 (H31)	451,485 人/年 (H29)	③	③
地域資源を活かし、魅力的で歩いて楽しく回遊できるまち	歩行者・自転車通行量(平日)	15,742 人/年 (H25)	16,200 人/年 (H31)	14,429 人/年 (H29)	②	①

<取組の進捗状況及び目標達成に関する見通しの分類>

- ①取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。
- ②取組の進捗状況は概ね予定どおりだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
- ③取組の進捗状況は予定どおりではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
- ④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

2. 目標達成見通しの理由

(1) 「新規出店店舗数」について

目標値 35 店舗に対して、平成 29 年度は 23 店舗であり、累計で 50 店舗となり目標達成をしたことで、見通しを①と評価する。

今年度は、守山駅前の顔づくり事業（近江鉄道ビル建て替え事業）や火まつり等伝統行事継承事業（火まつり交流館整備事業）の開業により複数のテナントが新規出店を果たしたこと、株式会社みらいもりやま21による空き店舗対策事業が有効に作用していることから、現時点で目標を達成している。

(2) 「中心市街地内の福祉・文化・交流施設の利用者数」について

今年度は、昨年度に引き続き、「市立図書館整備事業」を対象に含めているが、仮図書館での運営縮小により来館者が減少したことから、全体では基準年値を下回った（H25 年度：231,010 人/年→H29 年度：181,472 人/年）。しかし、前計画で整備した「守山市歴史文化まちづくり館（守山宿・町家“うの家”）」や「守山市中心市街地活性化交流プラザ（あまが池プラザ）」では利用者数が順調に増加し、駅前総合案内所でも朝市や作品展などの多様なイベントで集客を増やしている。市立図書館が開業し 31,190 人/年の増加（262,200 人/年程度）、および現状の利用者数推移の傾向が続いた場合、530,000 人/年～550,000 人/年の利用者が見込まれ、目標数値（507,000 人/年）は達成するものと思われる。

(3) 「歩行者・自転車通行量(平日)」について

今年度は、調査日が雨天であった昨年度に比べ大幅に数値が増加したものの、本計画にて取り組む「市立図書館整備事業」に伴う利用者減少等により、一時的に基準年値を下回る

結果となっている。しかし、全体として各事業の取組は順調に進んでいることから、今後目標達成は可能であるものとする。

具体的には、平成 29 年度、守山駅前顔づくり事業（近江鉄道ビル建て替え事業）、火まつり等伝統行事継承事業（火まつり交流館整備事業）による施設整備によって一部地点では数値が伸びていること、また今後、市立図書館整備事業や守山銀座ビル地区第一種市街地再開発事業により新たな施設整備が実現することから、これら主要な施設の利用者の回遊性を高めるようなしかけづくりを更に継続して検討する。

3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

歩行者・自転車通行量（平日）については、平成 28 年度フォローアップにおいて図書館整備事業に伴い利用者の大幅な減少による影響が予想された為、達成見込みを<②>と評価した。

しかしながら、本計画から追加した医療集積ゾーン（すこやか通り郵便局前）では、全計画で整備したにぎわい創出拠点と、周辺の河川環境向上や県立病院の機能強化などに加えて市立図書館の完成（平成 30 年 11 月）の影響を勘案すると通行量の増加が見込まれる。

また、中山道と並行する楓三道は区域内的の軸となる道路であり、「市街地再開発事業」（現在進行中）が行われる「銀座通り」とも結節する回遊性向上にとって大変重要な道路である。この楓三道を中心に、本計画により取組んだ事業（拠点）の効果を波及させるため、さらなる回遊性の向上を促す。具体的には、前計画による拠点のトライアングル（「うの家」「あまが池プラザ」「チカ守山」）に加えて、本計画による拠点のトライアングル（「近江鉄道ビル」「火まつり交流館」「市街地再開発事業」）間での利用者の周遊を促すよう、それぞれの施設の実施主体と連携（利用周知、案内）の強化を図る。

更に、今後開業予定の「守山銀座ビル」における保留床へ「にぎわいを創出する機能を有するテナント」等が誘致できるよう再開発組合および銀座商店街振興組合に働きかける。開業後に事業効果は発現するものとする。

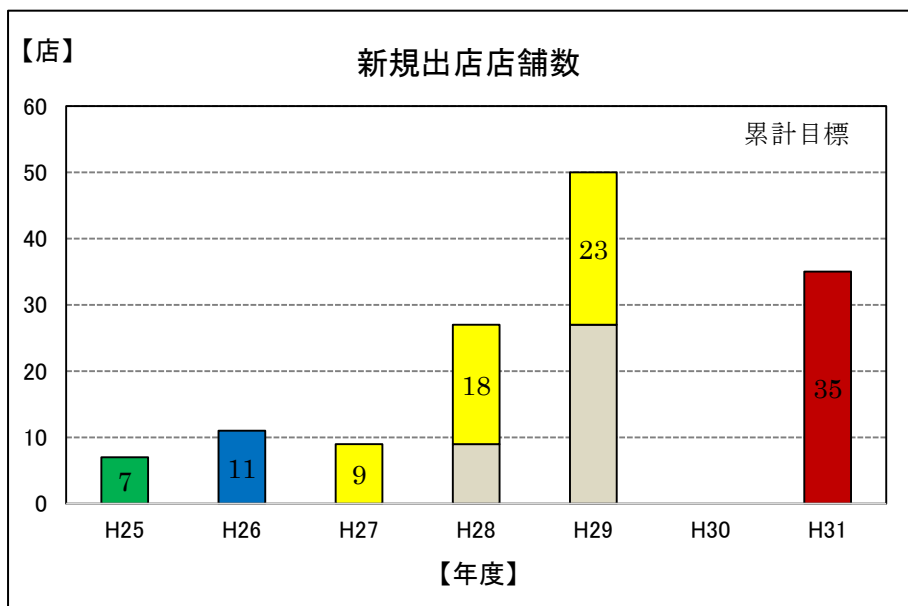
上記勘案の上で、歩行者・自転車通行量は目標を達成するものと見込む。

4. 目標指標毎のフォローアップ結果

「新規出店店舗数」

※目標設定の考え方基本計画 P72～P73 参照

●調査結果の推移



年	店舗数(累計値)
H25	7 (-) (基準年値)
H26	11 (-)
H27	9 (9)
H28	18 (27)
H29	23 (50)
H30	
H31	35 (50) (目標値)

● : 基本計画認定前の値 ● : 基準年値 ● : 各年度の新規出店店舗数 ● : 目標値

※調査方法 : 現地踏査
 ※調査月 : 年間を通じて都度調査
 ※調査主体 : 守山市
 ※調査対象 : 中心市街地内の新規出店店舗

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 守山銀座ビル地区第一種市街地再開発事業（守山銀座ビル市街地再開発組合）

事業完了時期	平成31年度（実施中）
事業概要	建築から50年が経過し、老朽化が進んでいる銀座商店街東西ビルの建て替えを行い、商業施設の魅力や利便性また道路機能を向上させることにより、集客力の向上や賑わいの創出を図る。
事業効果及び進捗状況	守山市のメインロードである銀座通りを挟んで2棟のビルが整備されることにより、同ビル内に5店舗の新規出店を見込む。 平成27年1月21日 再開発準備組合設立 平成27年5月 基本計画策定 平成28年2月 事業計画等作成業務の実施 平成28年3月25日 都市計画決定 大津湖南都市計画守山銀座ビル地区計画 大津湖南都市計画守山銀座ビル地区第一種市街地再開発事業 平成28年度 実施設計、事業計画、権利変換計画作成、地盤調査 平成29年11月 解体工事 平成30年 起工式、建設工事（予定） 平成31年 完成（予定）

②. 守山駅前の顔づくり事業（近江鉄道ビル建て替え事業）（近江鉄道株式会社）

事業完了時期	平成29年度（完了）
事業概要	守山駅前広場に隣接する近江鉄道ビルにおいて、魅力ある商業施設を整備し、集客力の向上やにぎわいの創出を図る。
事業効果及び進捗状況	建替え工事に伴い、見込み通り9店舗のテナント進出を達成。 平成27年春～ 実施設計、開発協議、テナント交渉 平成27年秋～ 建設業者選定、開発事前協議完了 平成28年1月21日 起工式、建設工事開始 平成28年度 引き続き建設工事の進行 平成29年8月1日 開業

③. セルバ守山1・2階活性化事業（セルバ守山管理組合）

事業完了時期	平成26年度～（実施中）
事業概要	守山駅から直接アクセスできる立地を活かし、リニューアルした地下商業施設の効果を活かしながら、訪れたい環境を創出する。
事業効果及び進捗状況	セルバ守山1・2階では、区分所有により有効に空き店舗が活用されていない中、昨年度からまちづくり会社が区分の配置替えとテナントリーシングに関わり、今年度、1階に飲食店が1店舗新規オープンした。既存2店舗に加え、累計6店舗が新規出店（目標値12店舗）

④. 空店舗対策事業（株式会社みらいもりやま21）

事業完了時期	平成21年度～（実施中）
事業概要	中心市街地における空店舗の解消に向け、市民ニーズを踏まえ、魅力ある店舗を誘致しにぎわいの創出を図る。
事業効果及び進捗状況	まちづくり会社によるリーシングにより、飲食店2店舗が新規オープンした。今後もまちづくり会社のネットワークを活かしながら、毎年2店舗を目標に、空店舗への店舗誘致を進めていく。累計6店舗が新規出店（目標値10店舗）

●目標達成の見通し及び今後の対策

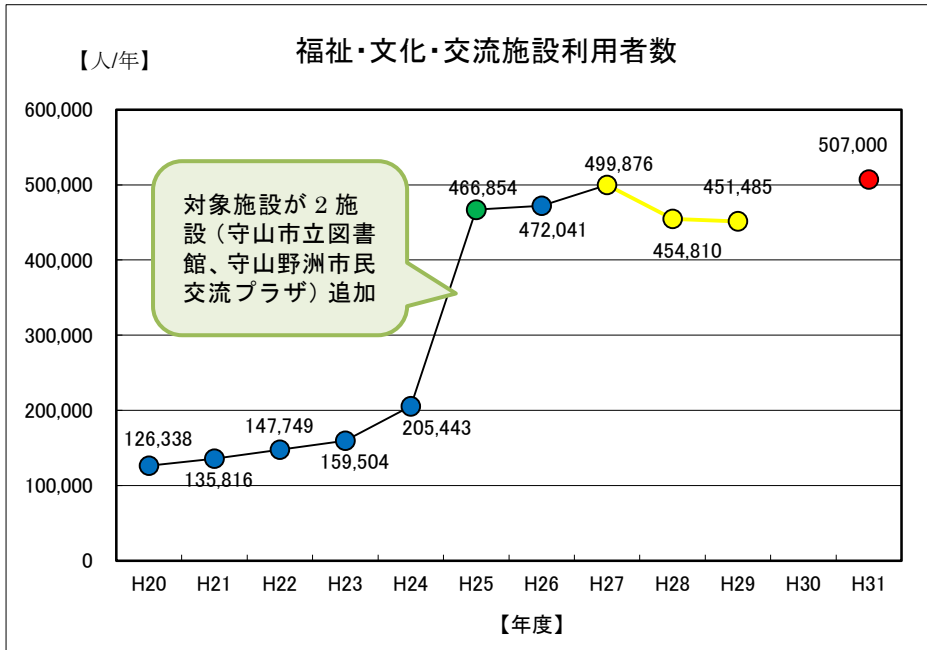
本年度新規出店店舗 23 店舗のうち、②守山駅前の顔づくり事業に伴う近江鉄道ビル建て替え完了により9店舗、③セルバ守山1・2階活性化事業により1店舗、④空店舗対策事業により2店舗、合計 10 店舗(2 店舗重複)が新規に出店。また、「火まつり等伝統行事継承事業(火まつり交流館整備事業)」により、2店舗の飲食店が出店。

今後、守山銀座ビル地区第一種市街地再開発事業により更なるテナント進出が見込まれるほか、株式会社みらいもりやま21が中心となり、セルバ守山1・2階の活性化事業やまちなかの空店舗対策事業を進めることで、前計画終了時点での課題として挙げた「商業面での活性化」の実現を図る。

「中心市街地内の福祉・文化・交流施設の利用者数」

※目標設定の考え方基本計画 P74～P76 参照

●調査結果の推移



年	(人/年)
H25	466,854 (基準年値)
H26	472,041
H27	499,876
H28	454,810
H29	451,485
H30	
H31	507,000 (目標値)

● 基本計画認定前の値 ● 基準年値 ● 基本計画認定後の値 ● 目標値

※調査方法：調査対象施設の利用者調査

※調査月：施設開館日は毎日実施、年度末取りまとめ

※調査主体：各調査対象施設管理者

※調査対象：守山公民館、駅前総合案内所、駅前コミュニティホール、市民交流センター、あまが池プラザ、
守山宿・町家“うの家”、中山道街道文化交流館、守山市立図書館、守山野洲市民交流プラザ

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

① 守山市立図書館整備事業（守山市）

事業完了時期	平成 30 年度（実施中）
事業概要	文化・芸術の拠点として多世代の利用が活発になると共に、文化芸術交流の質的向上が図れるよう、図書館の再整備を行う。
事業効果及び進捗状況	平成 27 年度 基本設計、設計管理業者選定 平成 28 年 5 月～ 実施設計 平成 28 年 10 月～ 解体工事開始 平成 30 年 11 月 新図書館開館 再整備後には、31,190 人/年の利用者増加を目指す。

②. 守山野洲市民交流プラザ福祉文化事業（一財 守山野洲市民交流プラザ）

事業完了時期	平成 27 年度～（実施中）
事業概要	守山野洲市民交流プラザの福祉文化事業の充実を図る。
事業効果及び進捗状況	守山駅の東側に位置する、守山野洲市民交流プラザにおいて、市民教養講座やコンサートなどの福祉・文化に関連する講座等の充実させることにより、150 人/年の利用者増加を目指す。 基準年の平成 25 年度に比べ、本年度の当該事業の利用者数は 248 人増の 2024 人であった。これは定期的で開催されるコンサート等が市民にも広く定着してきた成果と思われる。今後も内容の充実や周知を広めるなど工夫を凝らし、利用者の増加を目指す。

③. 中心市街地活性化に向けた様々な取り組みによる利用者の増加（市・商工会議所他）

事業完了時期	平成 27 年度～（実施中）
事業概要	中心市街地活性化の充実により主要施設の利用者の増加を図る。
事業効果及び進捗状況	前計画で整備した守山宿・町家“うの家”やあまが池プラザといった中心市街地の各施設では、それぞれの特性を活かし幅広い世代や用途に貸室が利用され、多くの市民活動を促進してきた。また、地場産野菜販売やまちかどコンサート、オーガニックピアガーデンパーティ、マルシェなどのイベントを継続的に実施してきた結果、認知度が向上し利用者の増加につながった。

●目標達成の見通し及び今後の対策

平成 28 年 11 月より、図書館の建て替え工事期間に入り、本年度も、引き続き仮設図書館（旧法務局）での運営に伴う規模縮小によって、「市立図書館」利用者数が減少していることなどから、合計値では基準年値を下回っているが、9つの対象施設の内6施設において基準年値の数値を大きく上回る推移で利用者を伸ばしている。

「駅前総合案内所」では、市政情報の提供機能に加え、定期的な朝市や作品展など市民活動積極的に実施したことで増加傾向を維持している。

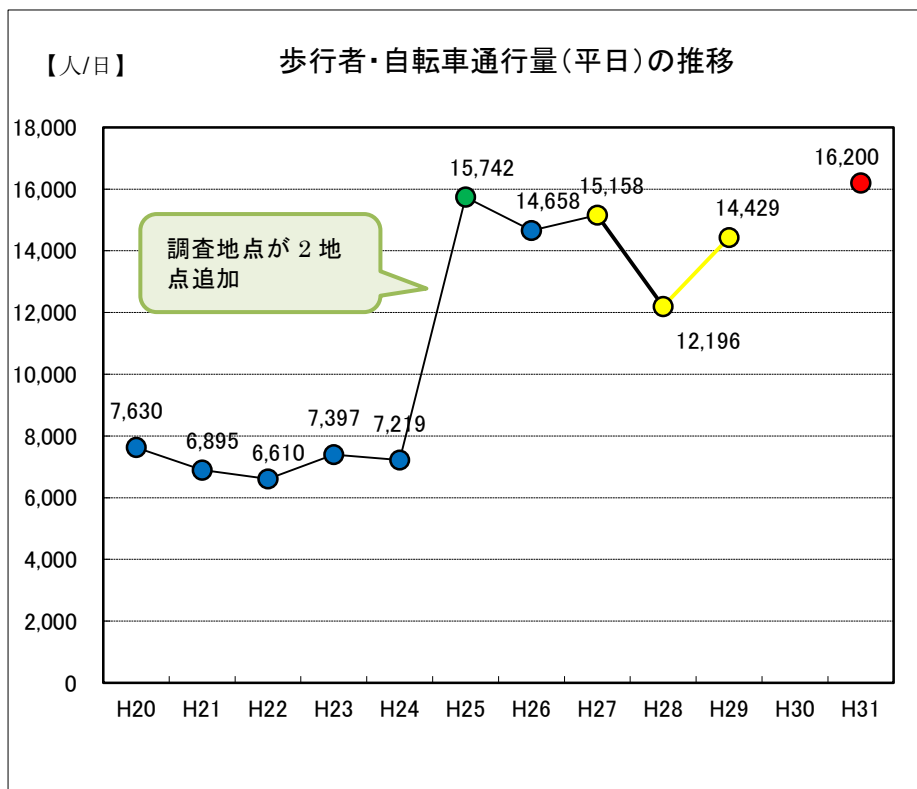
また、前計画で整備した「あまが池プラザ」、「守山宿・町家“うの家”」の両施設共に年間利用者数は開館以降増加傾向にあったが、平成 29 年度は前年度より減少した。要因として、「あまが池プラザ」においては、「火まつり交流館」の開設により同施設への利用者流出があった。「守山宿・町家“うの家”」においては、前年度から減少しているが、平成 28 年度は開館5周年の記念イベントによる集客効果があったためであり、これを一過性のものと見なせば、増加傾向にある。現在、両施設は、株式会社みらいもりやま21による指定管理が行われており、守山市や商工会議所等と連携を図りながらのイベント開催や、株式会社みらいもりやま21が有する幅広いネットワークを活かした運営が進められている。

各施設の利用者数が増加傾向にあるが、総合的に数値が横ばいである要因に「市立図書館」の整備工事に伴う利用者減少が挙げられる。同館は、平成 30 年 11 月に開館予定であり、利用者増加が順調に進捗するものと考えられ、目標を達成する見込みである。

今後、前計画で整備を行った「あまが池プラザ」、「守山宿・町家“うの家”」、本計画に位置づける「火まつり交流館」「近江鉄道ビル」「守山野洲市民交流プラザ」、その他「教育文化・医療福祉拠点」等との連携を強化し、利便性を高めることで、さらなる利用者数の増加を目指していく。

「歩行者・自転車通行量(平日)」 ※目標設定の考え方基本計画 P77～P80 参照

●調査結果の推移



年	(人/日)
H25	15,742 (基準年値)
H26	14,658
H27	15,158
H28	12,196
H29	14,429
H30	
H31	16,200 (目標値)

※調査方法：歩行者・自転車通行量(平日)調査

※調査月：毎年度10月下旬～11月上旬の平日

※調査主体：守山市

※調査対象：歩行者及び自転車通行者、平日5地点：北野電機前(銀座通り)、うの家前(中山道)
沢井電器店前(ほたる通り商店街)、郵便局前(すこやか通り)、カツミデンキ前(銀座通り)

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

① 守山銀座ビル地区第一種市街地再開発事業(守山銀座ビル市街地再開発組合)

事業完了時期	平成31年度(実施中)
事業概要	建築から50年が経過し、老朽化が進んでいる銀座商店街東西ビルの建て替えを行い、商業施設の魅力や利便性また道路機能を向上させることにより、集客力の向上や賑わいの創出を図る。
事業効果及び進捗状況	<p>平成27年1月21日 再開発準備組合設立</p> <p>平成27年5月 基本計画策定</p> <p>平成28年2月 事業計画等作成業務の実施</p> <p>平成28年3月25日 都市計画決定</p> <p>大津湖南都市計画守山銀座ビル地区計画</p> <p>大津湖南都市計画守山銀座ビル地区第一種市街地再開発事業</p> <p>平成28年度 実施設計、事業計画、権利変換計画作成、地盤調査</p> <p>平成29年11月 解体工事</p> <p>平成30年 起工式、建設工事(予定)</p> <p>平成31年完成(予定) 後には、123人/日の歩行者・自転車通行量の増加を目指す。</p>

②. 守山駅前顔づくり事業（近江鉄道ビル建て替え事業）（近江鉄道株）

事業完了時期	平成 29 年度（完了）
事業概要	守山駅前広場に隣接する近江鉄道ビルにおいて、魅力ある商業施設を整備し、集客力の向上やにぎわいの創出を図る。
事業効果及び進捗状況	平成 27 年春～ 実施設計、開発協議、テナント交渉 平成 27 年秋～ 建設業者選定、開発事前協議完了 平成 28 年 1 月 21 日 起工式、建設工事開始 平成 28 年度 引き続き建設工事の進行 平成 29 年 8 月 1 日 開業 当初（平成 25 年度）見込み：141 人/日増加 平成 29 年度時点：5044 人/日（対平成 25 年度比△391 人/日）

③. 平和堂守山店建て替え事業（株平和堂）

事業完了時期	平成 24 年度～（未）
事業概要	中心市街地の中央部に位置する平和堂守山店の建て替えにより、居住者や来街者の買い物利便性を高め、回遊性と集客力向上を図る。
事業効果及び進捗状況	事業者において、建替えについて検討されているが、事業者の事情もあり実施に至っていない。今後、実施される際には、エリア居住者や来街者の買い物利便性を高めるとともに、回遊性や集客力向上によりまちなかの活性化に寄与されるよう、引き続き働きかけを行う。

④. 滋賀県立成人病センター第二期改築工事、聴覚・コミュニケーション医療センター構想推進事業（滋賀県）

事業完了時期	平成 23 年度～（実施中）
事業概要	既存の滋賀県立総合病院の改築および聴覚・コミュニケーション医療センター構想の推進に合わせ、当該施設の周辺に位置する施設と連携を図りながら「健康・予防医学の取り組み」を進める。
事業効果及び進捗状況	滋賀県立総合病院では、高度専門医療の提供と全県型医療の展開に向けた機能強化を図るために、新病棟の建設が平成 26 年度より進められ、平成 28 年 11 月に増設完了。高度な医療施設が整う環境を活かし、行政や教育文化施設、民間事業者等が連携を図り、「健康・予防医学」をテーマとしたソフト事業に取り組み、200 人/日の歩行者・自転車通行量の増加を目指す。平成 26 年度からは、あまが池親水緑地においてオーガニックピアガーデンパーティが定期的に行われるようになり、健康・予防医学に関する情報発信や出店により市民の健康への関心を高めた。今後もソフト事業の継続ならびにバリアフリー化等に伴う、散策を楽しみたくする環境づくりを進めていく。 ※平成 30 年 1 月 1 日より「成人病センター」から「滋賀県立総合病院」に名称が変更

●目標達成の見通し及び今後の対策

平成 29 年度は、基準年値と比べ 14,429 人と減少しているが、これは本計画にて取り組む「市立図書館整備事業」に伴う利用者減少等により、一時的に基準年値を下回る結果となっているものである。しかしながら、全体として各事業の取組は順調に進んでいることから、今後目標達成は可能であるものとする。

特に、本計画から追加した医療集積ゾーン（すこやか通り郵便局前）については、基準年値と

比較して 2,722 人と地点別では最も減少しており、周辺の目田川の河川環境の向上、県立総合病院の機能強化、市立図書館の完成(平成 30 年 11 月開館予定)等との連携を高めるなどの対策を講じる。

火まつり等伝統行事継承事業(火まつり交流館整備事業)により、新たな交流施設がオープンした勝部地点の通行量は過去最高数値であった。また、守山駅前の顔づくり事業(近江鉄道ビル建て替え事業)により、新たな商業施設がオープンした駅前地点でも順調に通行量が増加しており、整備事業による効果が見られる。このことから、本計画の重要事業に位置付けている守山銀座ビル地区第一種市街地再開発事業(平成 31 年開業予定)においても相当程度の効果が期待可能と考えられる。

中山道と並行する楓三道は区域内的の軸となる重要な道路であり、新たな回遊性、にぎわいを創出するための機能を導入すべく現在検討中である。その効果を目指して反映できるよう、平成 30 年度も引き続き火まつり等伝統行事継承事業とあわせて、伝統行事の情報発信や交流拠点づくり等ソフト事業について、事業者やまちづくり会社、商工会議所、地元住民等、関係者間で連携を図りながら、工夫を重ねていく。